

国境を容易に越える侵害 マンガ海賊版の最新状況とその対策

2015.11.20

集英社 知的財産課

伊東 敦

ネットでの被害額の推定値は莫大

経済産業省の平成25年度の委託調査では…

- ▶ 日本のマンガファンの12%、アメリカのマンガファンの50%がネットで海賊版を楽しんでいる
- ▶ 日本でのマンガの被害総額は500億円
- ▶ アメリカでのマンガの被害総額は1兆3000億円
- ▶ また平成24年度文化庁委託調査では、中国主要4都市（北京、上海、広州、重慶）のマンガの被害推計額は、約1100億円※有償ダウンロード料金換算で推計

ですが、金額が大きすぎて実感が湧かない…
そんな疑問にお答えします

日本のマンガが直面する 大きな問題は、この3つ

▶ リーチサイトからサイバーロッカー

法的にグレー。かつ、海賊がマネタイズできる仕組みをしっかりと構築

▶ 英語 & 中国語の スキャンレーションサイト

確信犯で削除要請に応じない。かつ、紙の雑誌の発売日前にアップ

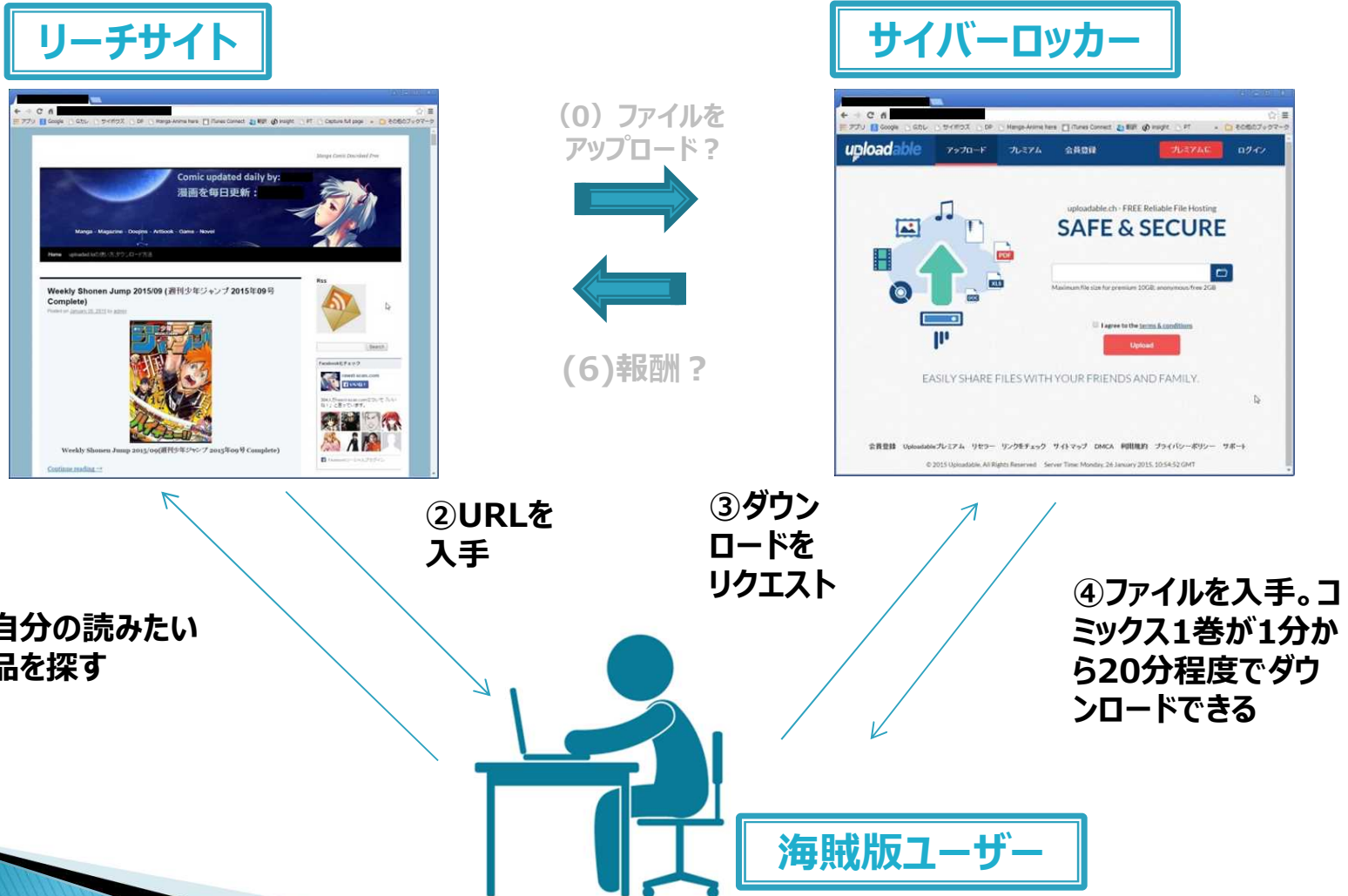
▶ 少数だが強力なトレントサイト

こちらも確信犯。かつ、訪問者数が圧倒的。またコミックス全70巻など巨大なファイルがスピーディにダウンロードできる

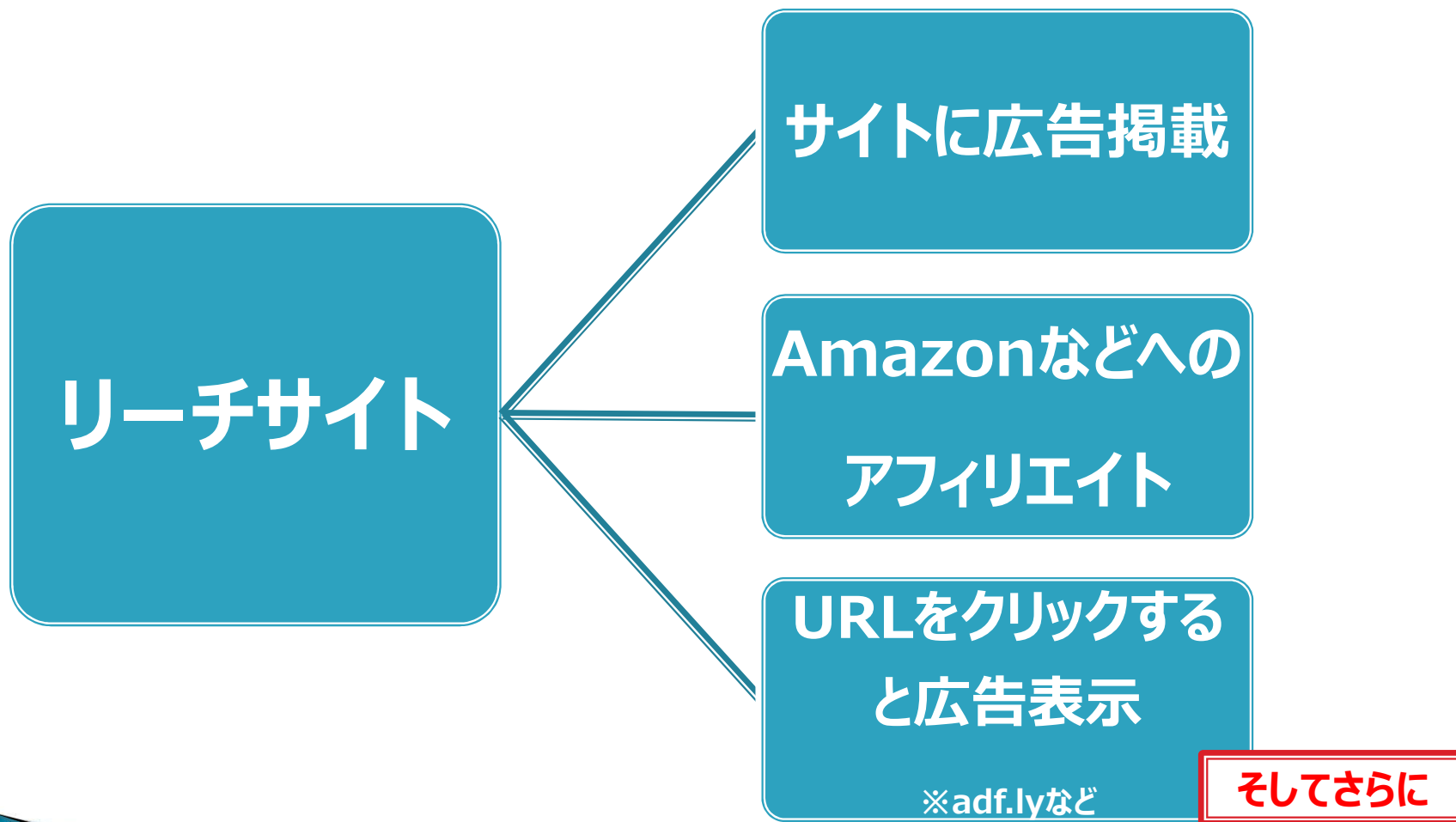
さて、海賊版流通の温床、リーチサイトとは？

- ▶ **海賊版がDLできるURLを集めたサイト**
 - ▶ 日本語ユーザー向けが多いが、各国語版も散見
- ▶ **リーチサイトに掲載されているURL情報をクリックすると、サイバーロッカーにジャンプしてDLが可能**
 - ▶ ダウンロードできるファイルは、おもにjpg画像をZIPでまとめたもの
 - ▶ PCでも読めるが、スマホやタブレットのリーダーアプリで読むと、正規版の電子書籍と読書感覚はまったく同じ
 - ▶ コピーガードが施されていないので（DRMフリー）、再配布自由

その流れを図式化すると...



リーチサイトは儲かる！ その収益構造図



リーチサイト→サイバーロッカーの 収益構造解説

- ▶ サイバーロッカーからDLするユーザーは、プレミアム会員にならないと、スピード、一日のダウンロード数、複数ファイル同時DLの制限などあって使い勝手が非常に悪い。半年で40ドルほど支払って、プレミアム会員になると、格段に使い勝手がよくなる。
- ▶ プレミアム会員のDL数に応じて、アップロードした海賊は、**サイバーロッカーから報酬が入る！**
- ▶ ゆえに、サイバーロッカーに侵害物をアップしているのは、リーチサイトの運営者である可能性が非常に高い。
- ▶ ある中堅リーチサイトの書き込み→「一ヶ月の収入は、そこそこやってバイトの月収、がんばれば、会社員程度の収入が可能」

ここが大問題。リーチサイト& サイバーロッカーが悪質な理由

- ▶ とにかくサイトが多い。リーチサイトは100超え、小規模のブログも含めると無数
- ▶ こちらの削除要請でサイバーロッカーが削除しても、瞬時に新しいURLがリーチサイトに再掲載される場合がある（結託している？）
- ▶ 電子書籍版の不正コピー（画面キャプチャー等）が流通し始めた。=クオリティは高い
- ▶ ユーザーのリクエストを受け付けるなど営業努力をしている
- ▶ 翻訳海賊版の元データとなっている可能性大

オンラインリーディングサイトの定義

- ▶ スキャンして翻訳 = スキャンレーションサイト、あるいはWebブラウザで手軽に読めるので、オンラインリーディングサイトとも言われてきた…。しかし
- ▶ もともとは海外（特にアメリカ）の日本マンガが大好きな集団が「善意で勝手に翻訳」したのが始まり。が、ネットの隆盛とともに変質していった→収益重視
- ▶ **ここで正確に再定義** オンラインリーディングサイトには3種類ある

自前でスキャン、翻訳、加工してアップロード	スキャンレーションサイト	数グループ
上記の加工された画像を流用して、翻訳だけは自前	トランスレーションサイト	数百？
上のふたつの画像を流用して自分のサイトに掲載	2次放流サイト	無数

オンラインリーディングサイトの実態

- ▶ すべて自前でスキャン、翻訳、加工している集団は、世界でも数グループしか存在しない。複数人数を擁した**本格的な海賊集団**
- ▶ 上記グループと協力関係にあると推測される翻訳・加工だけ手がけるサイトが多数存在。
- ▶ 翻訳・加工を分担して、なるべく多くの海賊版を流通させる仕組み。翻訳・加工された海賊版は各サイトで共有
- ▶ スキャン、翻訳、加工だけ行い、サイトを持たない集団もいる
- ▶ 2次放流サイトは、個人でも運営可能
- ▶ 翻訳言語は英語を中心に中国語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、タイ語など多数

SimilarWeb.comによる オンラインリーディングサイト ランキング

オンラインリーディングサイト	翻訳言語	global /位	主なユーザー国	1位国での ランク / 位	2014年9月の 訪問者数 / 人	サーバー
サイトA	英語	87	アメリカ フィリピン インドネシア カナダ	87 (アメリカ)	3820万	オランダ
サイトB	英語	268	アメリカ カナダ フランス フィリピン	502 (アメリカ)	3650万	トルコ
サイトC	英語	272	アメリカ カナダ イギリス フィリピン	1,304 (アメリカ)	2860万	オランダ
Manga panda →摘発	英語	660	アメリカ フィリピン 日本 カナダ	367 (アメリカ)	1610万	トルコ
サイトD	中国語	4,406	中国 アメリカ 台湾 香港	89 (中国)	220万	中国
サイトE	中国語	4,524	中国 台湾 香港 アメリカ	201 (中国)	310万	中国

オンラインリーディングサイトの問題点

- ▶ 削除要請になかなか応じない。サイト、またはサーバー、またはその両方に、集英社、現地関連会社、侵害対策会社から度重なる削除要請（弁護士からの警告書も含む）をかけて、ようやく反応があるも…
- ▶ 日本からのアクセス制限などでお茶を濁して営業を続けるサイトや…
- ▶ サーバーをトルコに移転して、営業を再開するなど、徒労に終わることばかり
- ▶ そして何よりの問題は、日本の紙の雑誌の発売日より前に、翻訳されてアップされること

普通の人には縁遠い存在だが、 海賊版を楽しむならトレントに限る！

サイト	2014年9月の訪問者数 / 人	ユーザー国	海賊版の種類
サイトF	2700万	日本(41%)	マンガ、アニメ中心
サイトG	4億2500万	アメリカ(35%)	映画、音楽。マンガは一部
サイトH	240万	日本(97%)	マンガ、アニメ中心
サイトI	320万	日本(31%)	マンガ、アニメ中心

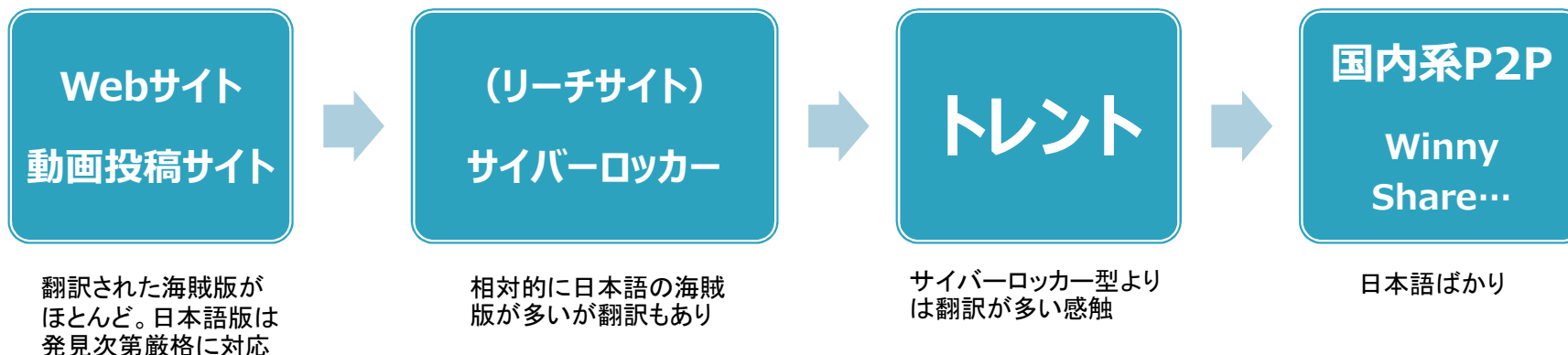
- ・サイトFの最新の訪問者数は、月3350万人！
- ・日本のありとあらゆるサイトの中で36位！
- ・ちなみにメディアでいえばasahi.comが80位
- ・このサービスの特徴として、巨大なファイルがスムーズにダウンロードできる
- ・削除要請が困難な仕組み

こちらは大問題。その他の侵害態様

- ①「スマホ」「タブレット」からの閲覧。海賊版蔵置サイトにアクセスし読むことができるリーダーアプリが相当数出回っている。そしてストアから削除されても、ユーザーがダウンロード済み
- ②固定ユーザーはまだまだいるが、侵害対策の成功例としての「P2P」→Winny、Share、Cabosなど
- ③相変わらず多い動画投稿サイトの「紙芝居動画」
- ④予想はしていたが、現実となると驚愕！ Kindleストアに海賊版

【参考】侵害の全体像を Webのサービス形態から考える

左側ほどユーザーは手軽に閲覧、ダウンロード可能。
右に行くほどディープかつリスクでライトユーザーは手を出しにくい



悪質なWebサイト型を除き、右に行くほど削除対応も困難になる

集英社の海賊版対策

- ▶ 集英社自ら、相当数の海賊版をテイクダウン
- ▶ 経産省と協力して、出版社連合で大規模削除を実施
- ▶ 警察と連携して刑事事件化
- ▶ 関係各機関との連携→海賊版ユーザーへの啓発スキームを構築しているACCSへの協力
- ▶ Webサイト (shonejump.com) やMAGPでユーザーへ啓発
- ▶ 現地ライセンサーと連携しての対策→今年、成功例が！



著作権法改正後も、侵害対策のネックのひとつは プロバイダー責任制限法

- ▶ 雑誌内の著作物に関して、著作権を設定することは現実的でない。特に写真の著作物に関して
- ▶ 雑誌丸ごと一冊の侵害であれば、編集著作権で、出版社が対応できるが…
- ▶ 現実には、写真のみの侵害等が横行している
- ▶ 日本のサービスプロバイダーに出版社から削除要請を送ると、プロ責法のガイドラインに沿った対応を求められることが多い→カメラマンの免許証やパスポートを提出せよ…
- ▶ 著作者の負担が非常に大きい
- ▶ プロ責法の呪縛で侵害物対策が困難に直面している
- ▶ TPP大筋合意→国内法整備と進む中で、実運用上「使える」法律になることを強く要望する

望まれるのは各国間の協力体制

- ▶ 海賊グループが本拠を置く地域→アメリカ、日本、中国、タイ、インドネシア…
- ▶ ユーザーが多い地域→アメリカ、日本、中国、台湾、フィリピン…
- ▶ サーバー設置国、ネットサービス提供国→トルコ、キプロス、オランダ、スイス、中国、アメリカ、カナダ…
- ▶ 海賊たちが国境を越えて侵害を行なっている以上、その対策には各国間の協力が不可欠
- ▶ そして、海賊版対策と同時に、全世界のユーザーに向けてさらに読みやすい正規版の提供も不可欠